



僕にできる小さなこと

僕はジョンレノンが好きだ。なぜと聞かれてもうまく答えられないが、やっぱりカッコいい。思いは一貫しているのだが、避けてきた作品もある。イマジンだ。ハードロックじゃないし、なんだか説教くさく感じ、これまで間違いなく避けてきた。しかし今、無性に聴きたいのはな

ぜだろう。

今から20年前、イギリスにある小さな語学学校に通っていた。テレビもない殺風景な寮の生活に退屈していた頃、意を決して街にある古いパブに入ってみた。来店した多くの著名人のネクタイが入った額縁に見とれていると、店員がげげんな表情でオーダーを取りにきた。お作法を知らず、モタモタしていたら、一人の中年男性が「俺に一杯おごらせてくれ」と言って注文してくれた。それから彼とは毎日のようにこのパブで会い、家族のことや社会のことなどい

ろいろな話をした。

そんなある日、いつものようにパブに顔を出すと、普段フレンドリーに話し掛けてくる皆が深刻な顔をしている。いつもは優しい彼も、「今日は帰れ」と言ってきた。「なぜだ？」と問うと首を横に振り、「うまく説明できない、教会に行くといい」とだけ言って去った。僕は言われた通りに街の教会に行くとミサが開かれていた。ほぼ聞き取ることはできなかったが、「アメリカが攻撃された、最悪の事態になるかもしれない」という言葉だけは理解できた。9.11同

時多発テロである。衝撃を受けた僕はその後どうやって寮に帰ったかも覚えていないが、世界が全く違って見えたことだけは覚えている。

あれから20年の間に世界で何があったのか。あの頃より幸せか。そんなことを考えたら、パブの客のような顔になっている自分がいた。だから今、無性にイマジンが聴きたい。全ての人を想像するために。

たかみ・だいすけ 日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。41歳。